

神鋼アクテック株式会社

2021 年度 環境経営レポート

(対象期間 2021 年4月1日～ 2022 年3月31日)



認証番号0003635

発行日： 2022年4月15日

□目次

項 目	ページ
表紙	1
目次	2
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
認証・登録の対象組織・活動	4
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績(日高工場)	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	8～13
主な環境負荷の実績(大阪本社、東京営業所)	14
環境経営目標及びその実績(大阪本社、東京営業所)	14
環境経営計画の取組結果とその評価(大阪本社、東京営業所)	14
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	15
外部からの環境上の苦情・要望等	15
緊急事態対応訓練	15
代表者による全体の評価と見直し・指示	16
これまでの環境活動の紹介	17
編集後記	17

□ごあいさつ

神鋼アクテック株式会社は、環境改善のための各種フィルター製品と、その応用機器を製造販売しています。家庭、オフィス空間から、工場排気に至るまで、快適環境作りのお役に立つことを目標としています。2008年9月から本格的な環境活動を開始し、2009年5月に生産工場がエコアクション21の認証を取得しました。また、2013年1月からは大阪本社・東京営業所を含めた活動を展開しています。環境測定データ及び取組状況を定期的に確認し、更なる環境負荷低減が可能な負荷を抽出しています。全社従業員ひとりひとりが目標を持って行動することを宣言し、改善活動に取り組んでいます。

神鋼アクテック(株) 日高工場・大阪本社・東京営業所

環境方針

(基本理念)

当社の製品を製造する日高工場は、兵庫県の北東部に位置し、北は日本海を望み、間近に広大な円山川が悠然と流れ、近隣の山岳には登山やスキーで有名な氷ノ山・鉢伏山や神鍋山があり、また、特別天然記念物のコウノトリが放鳥され野生復帰を進めており、多彩な四季を織りなす自然環境に恵まれています。

当社は各種製品の製造・販売に当たり、豊かな自然環境を守り地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて社内外の環境改善に積極的に取り組みます。

(基本方針)

1. 環境に関する法規制・条例など、当社内外の要求事項を遵守し、地球環境を守ります。
2. 事業活動・製品が環境に与える影響を的確に把握し、環境方針に基づいて環境目標を定めて、また定期的に見直して、環境改善活動を継続推進し環境汚染の予防に努めます。
3. 以下の項目を重点に取り組みます。
 - 1) 二酸化炭素排出量の削減(日高工場、大阪本社、東京営業所)
・省エネルギー推進(電力、化石燃料等)
 - 2) 産業廃棄物の適切な処理と削減(日高工場、大阪本社、東京営業所)
 - 3) 有害化学物質使用量の削減(日高工場)
 - 4) 省資源化の推進
 - 5) 水の削減(日高工場、大阪本社、東京営業所)
 - 6) 環境教育や啓発活動・地域貢献活動の推進(日高工場、大阪本社、東京営業所)
4. この環境方針は、社内の適所に掲示し全従業員に周知徹底すると共に、一般に公開します。

制定日:2008年08月01日

改定日:2021年04月01日

神鋼アクテック株式会社 日高工場

工場長 井元 宏明

□組織の概要

更新日：2022年4月15日

(1) 名称及び代表者名
神鋼アクテック株式会社
日高工場長 井元宏明

(2) 所在地

日高工場	兵庫県豊岡市日高町岩中682番地
宵田倉庫	兵庫県豊岡市日高町岩中字中坪138-1 (組織上は日高工場に所属)
大阪本社	大阪府大阪市西区靱本町1丁目11番7号信濃橋三井ビルディング11階
東京営業所	東京都台東区上野5丁目15番14号ONEST上野御徒町ビル2階
技術開発部	神奈川県藤沢市宮前100-1(株)神戸製鋼所藤沢事業所内)

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	日高工場製造課長	橋本 裕之	TEL:0796-42-1212
担当者	日高工場製造課設備Gr長	池田 智史	TEL:0796-42-1212

(4) 事業内容

高機能材脱臭フィルター及び溶接用裏当て材の製造・仕入販売

(5) 事業の規模

売上高 1,479 百万円

	日高工場	大阪本社	東京営業所	技術開発部	合計
従業員名	47名	7名	5名	11名	70名
延べ床面積 m ²	16474 m ²	87.6 m ²	117.1 m ²	90 m ²	16,769 m ²

(6) 事業年度

4月 1日～3月31日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名:

神鋼アクテック株式会社

対象事業所:

日高工場

大阪本社

東京営業所

対象外:

技術開発部 (株)神戸製鋼所藤沢事業所内で環境活動に取組中

活動:

高機能材脱臭フィルター及び溶接用裏当て材の製造・仕入販売



□事業や製品(商品)の紹介

神鋼アクテック株式会社は、「におい」と環境を科学する脱臭素材の専門会社です。

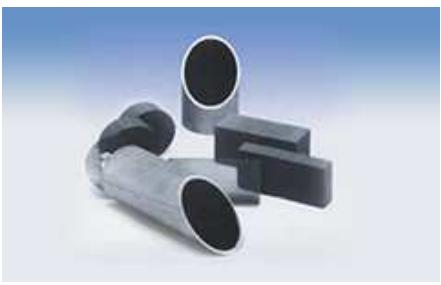
高機能材ハニカム

吸着剤による吸脱着作用や触媒分解作用により成分を吸着、分解することができます。



品名:厨房排気用脱臭ハニカム KDH

飲食店の厨房や食品加工工場から発生する
調理排気臭の脱臭に最適です。



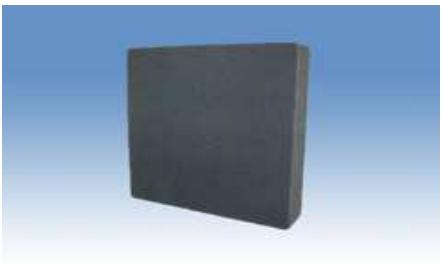
品名:各種触媒ハニカム AKH

ご要望に応じて最適なフィルタを
ご提案致します。



品名:厨房排気用脱臭フィルタ KCU

中小規模飲食店舗などから発生する
調理排気臭の脱臭に最適です。



品名:活性炭ハニカム ACH

脱臭、微量ガスの除去、空気清浄、触媒担体
など様々な用途に応じます。

片面溶接用裏当て材

片面溶接を行なう際に使用し、良好で健全な裏ビードが得られます。



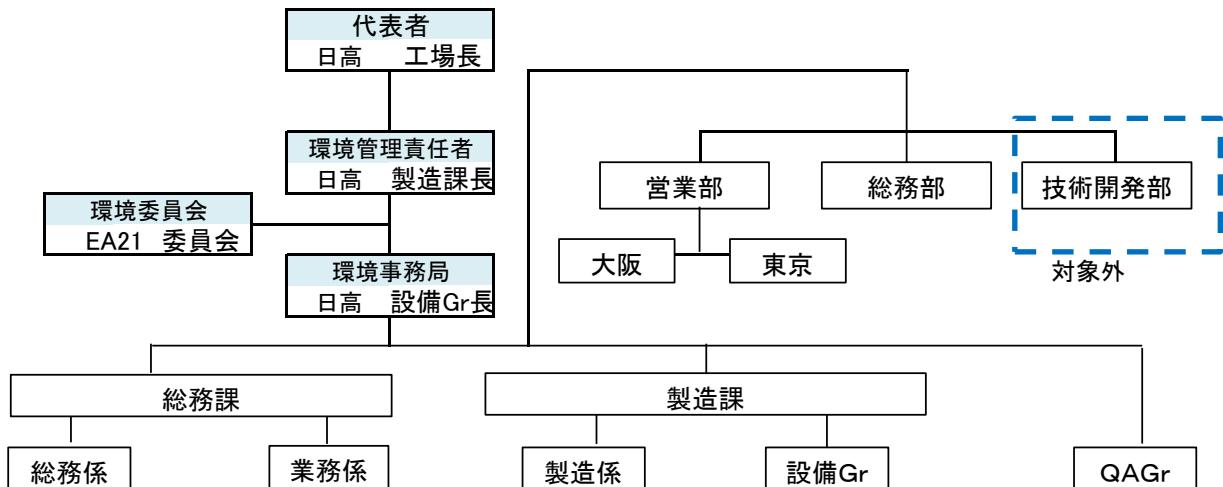
品名：FA-B1



品名：FB-B3

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2022年4月15日



区分	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、日高の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長 係長 Gr長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績(日高工場)

項目	単位	2019年	2020年	2021年
生産量(高機能)	トン	173	135.9	166.9
生産量(裏当て)	トン	534	357.4	258.5
二酸化炭素総排出量	t-CO ₂	500.9	447.5	510.9
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	6,585	6,468	6,171
産業廃棄物排出量	kg	46,990	27,790	49,521
総排水量	m ³	1,872	1,804	2,276

※二酸化炭素排出係数 0.00042 t-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

1q

□環境経営目標及びその実績

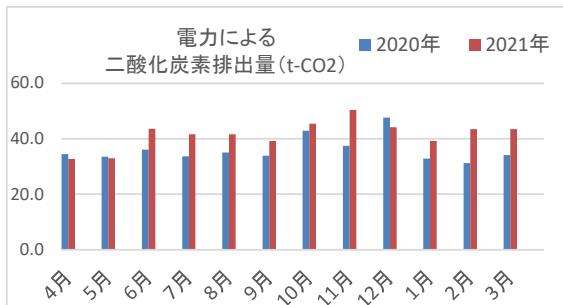
項目	年度	2020年		2021年		評価	2022年		2023年	
		(基準値)		上段: 排出量 下段: 原単位			(目標)		(実績)	
		(基準値)原単位	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)
電力による二酸化炭素排出量削減	t-CO ₂	432.7	428.4	497.6						
	基準年度比	100%	99%	115%						
	t-CO ₂ /t	0.88	0.87	1.17	×		0.86		0.85	
	基準年度比	100%	99%	133%			98%		97%	
フォークリフト・トラックによる二酸化炭素排出量削減	t-CO ₂	2.64	2.62	1.80						
	基準年度比	100%	99%	68%						
	t-CO ₂ /t	0.0054	0.0053	0.0042	○		0.0053		0.0052	
	基準年度比	100%	99%	79%			98%		97%	
LPGによる二酸化炭素排出量削減	t-CO ₂	2.83	2.80	2.10						
	基準年度比	100%	99%	74%						
	t-CO ₂ /t	0.0079	0.0078	0.0081	×		0.0078		0.0077	
	基準年度比	100%	99%	103%			98%		97%	
灯油による二酸化炭素排出量削減	t-CO ₂	9.78	9.69	9.39						
	基準年度比	100%	99%	96%						
	t-CO ₂ /t	0.0198	0.0196	0.0221	×		0.0194		0.0192	
	基準年度比	100%	99%	111%			98%		97%	
上記二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	448.0	443.5	510.9			427		422	
一般廃棄物の削減	kg	6,468	6,403	6,171						
	基準年度比	100%	99%	95%						
	kg/t	13.1	13.0	14.5	×		12.8		12.7	
	基準年度比	100%	99%	111%			98%		97%	
上記一般廃棄物排出量合計	kg	6,468	6,403	6,171			6,339		6,274	
(高機能)産業廃棄物の削減	kg	21,970	21,750	47,400						
	基準年度比	100%	99%	216%						
	kg/t	161.6	160.0	284.1	×		158.4		156.8	
	基準年度比	100%	99%	176%			98%		97%	
(裏当て)産業廃棄物の削減	kg	3,430	3,396	980						
	基準年度比	100%	99%	29%						
	kg/t	9.6	9.5	3.8	○		9.4		9.3	
	基準年度比	100%	99%	39%			98%		97%	
(その他)産業廃棄物の削減	kg	2,390	2,366	2,121						
	基準年度比	100%	99%	89%						
	kg/t	4.84	4.80	5.0	×		4.75		4.70	
	基準年度比	100%	99%	103%			98%		97%	
上記産業廃棄物排出量合計	kg	27,790	27,512	50,501			27,234		26,956	
水使用量の削減	m ³	1,804	1,786	2,276						
	基準年度比	100%	99%	126%						
	m ³ /t	3.7	3.6	5.4	×		3.6		3.5	
	基準年度比	100%	99%	146%			98%		97%	
上記水道水排出量合計	m ³	1,804	1,786	2,276			1,768		1,750	
マンガン使用量削減	kg	7,369	7,295	8,546						
	基準年度比	100%	99%	116%						
	kg/t	54.2	53.7	51.2	○		53.1		52.6	
	基準年度比	100%	99%	94%			98%		97%	
上記マンガン排出量合計	kg	7,369	7,295	8,546			7,221		7,148	
コピー用紙使用量(A4)	枚	195,000	195,000	175,000	○		175,000		175,000	
環境に配慮した生産活動					行動目標(次項による)					

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

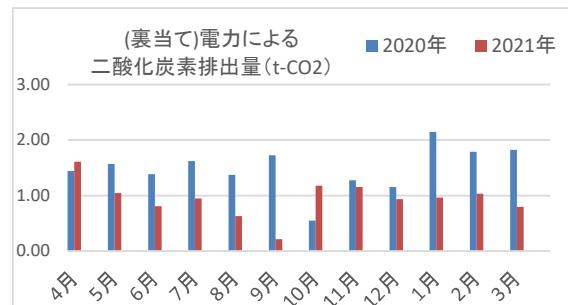
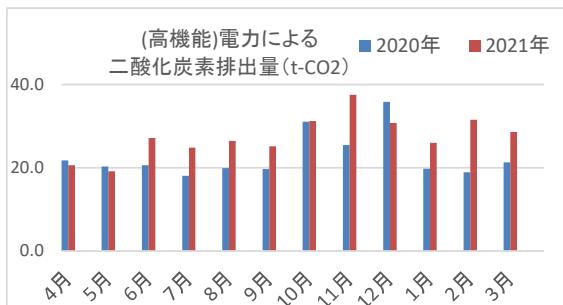
数値目標:○達成 ×未達成

活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素排出量削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		×	年間を通じて、目標値を超過した結果となった。電力を多く使用する大型乾燥炉の運転が多く、原単位を抑えることが難しかった。売上高は基準年より増加したが、売上高原単位はt-CO2の増加の影響が大きく、増加となった。
・生産性、歩留り予算の必達～向上		△	
・焼成炉、乾燥炉の時間調整によるデマンド平準化		○	
・ラインのチヨコ停対策		△	
・照明のこまめな消灯		○	
・集塵機フィルタ清掃		○	

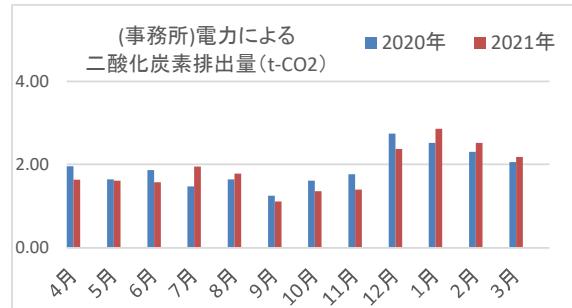
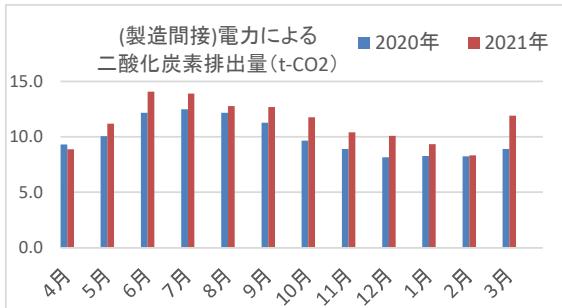


電力	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	34.4	33.6	36.0	33.7	35.1	33.9	42.8	37.4	47.6	32.9	31.2	34.1
合計	432.7	t-CO2	総生産量	493	t	原単位	0.88	t-CO2/t				
2021年	32.7	33.0	43.5	41.6	41.6	39.1	45.4	50.4	44.2	39.2	43.4	43.5
合計	497.6	t-CO2	総生産量	425	t	原単位	1.17	t-CO2/t	133% (原単位2020年度比)			



高機能	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	21.7	20.3	20.6	18.1	19.9	19.7	31.0	25.5	35.8	19.7	18.9	21.3
合計	272.6	t-CO2	生産量	136	t	原単位	2.01	t-CO2/t				
2021年	20.6	19.1	27.1	24.8	26.5	25.2	31.2	37.5	30.8	26.0	31.5	28.6
合計	328.9	t-CO2	生産量	167	t	原単位	1.97	t-CO2/t	98% (原単位2020年度比)			

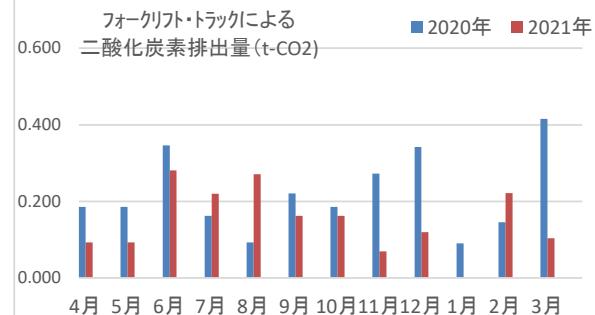
裏担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	1.44	1.57	1.38	1.62	1.37	1.72	0.55	1.27	1.15	2.15	1.79	1.82
合計	17.8	t-CO2	生産量	357	t	原単位	0.05	t-CO2/t				
2021年	2	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1
合計	11.3	t-CO2	生産量	259	t	原単位	0.04	t-CO2/t	88% (原単位2020年度比)			



間接	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	9.3	10.0	12.2	12.5	12.2	11.3	9.6	8.9	8.2	8.2	8.2	8.9
合計	119.4	t-CO ₂	総生産量	493	t	原単位	0.24	t-CO ₂ /t				
2021年	8.9	11.2	14.0	13.9	12.7	12.7	11.7	10.4	10.1	9.3	8.3	11.9
合計	135.1	t-CO ₂	総生産量	425	t	原単位	0.32	t-CO ₂ /t	131%	(原単位2020年度比)		

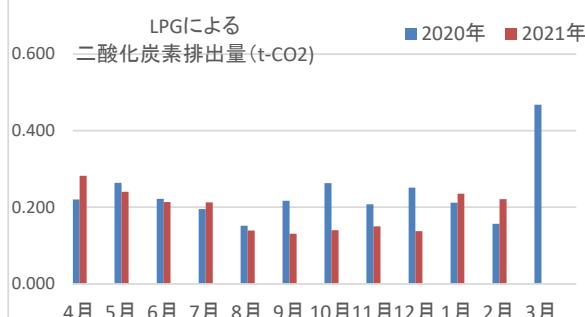
事務所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	1.96	1.64	1.86	1.47	1.64	1.25	1.61	1.77	2.74	2.52	2.30	2.05
合計	22.8	t-CO ₂	総生産量	493	t	原単位	0.05	t-CO ₂ /t				
2021年	1.64	1.61	1.57	1.95	1.78	1.11	1.36	1.39	2.37	2.86	2.51	2.18
合計	22.3	t-CO ₂	総生産量	425	t	原単位	0.05	t-CO ₂ /t	114%	(原単位2020年度比)		

フォークリフト・トラックによる二酸化炭素排出量削減達成状況		取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標		○ 年間を通じて抑えることが出来た。都度製品や原材料の整理をし、フォークリフトやトラックの使用量を抑えた効果だとと思われる。また、10月より製品・原料運搬にはリーチフォークのみ使用し、エンジンフォークの使用を廃止したことでガソリン使用量の更なる抑制につながったと思われる。2022年度以降は荷役作業の効率化を図るべく工場レイアウトの見直しを検討している。	
・省エネ運転の教育	○		
・効率的な荷役作業	○		



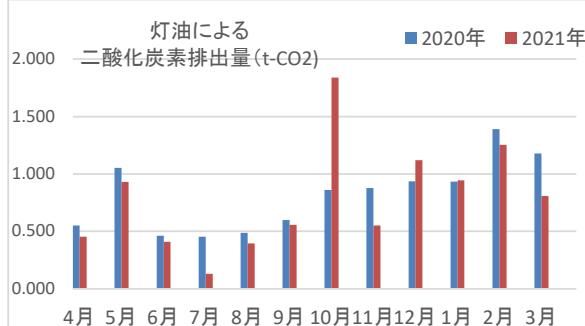
フォークリック	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	0.186	0.186	0.346	0.162	0.093	0.220	0.186	0.273	0.342	0.090	0.145	0.415
合計	2.6	t-CO ₂	総生産量	493	t	原単位	0.005	t-CO ₂ /t				
2021年	0.093	0.093	0.281	0.219	0.271	0.162	0.162	0.070	0.119	0.000	0.222	0.103
合計	1.8	t-CO ₂	総生産量	425	t	原単位	0.004	t-CO ₂ /t	79%	(原単位2020年度比)		

LPGによる二酸化炭素排出量削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		×	
・昼休みの連想の実施		○	要員の関係上、昼休みの連続焼成が困難な状況であるが、2021年度より焼成作業の教育を行い、連続焼成実施に向けた活動を行っている。
・機器の放熱(保温)対策の実施		○	2022年度以降も教育を計画し、要員不足による連装未実施を防ぐ。



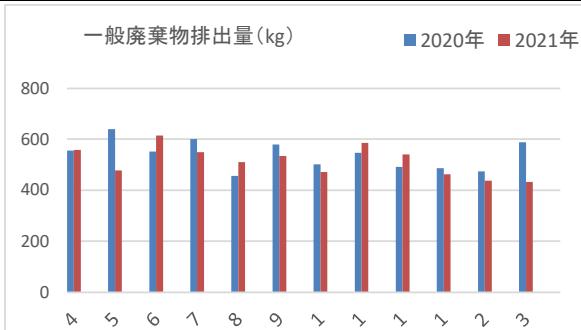
LPG	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	0.220	0.264	0.222	0.195	0.152	0.217	0.263	0.208	0.251	0.212	0.156	0.468
合計	2.8	t-CO2	生産量	357	t	原単位	0.008	t-CO2/t				
2021年	0.282	0.240	0.213	0.213	0.139	0.131	0.140	0.150	0.137	0.235	0.221	0.000
合計	2.1	t-CO2	生産量	259	t	原単位	0.008	t-CO2/t	103%	(原単位2020年度比)		

灯油による二酸化炭素排出量削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		×	
・ボイラー温度設定の制限		○	
・休日はボイラーを停止する		○	
・夏季はシャワーのみ使用		○	



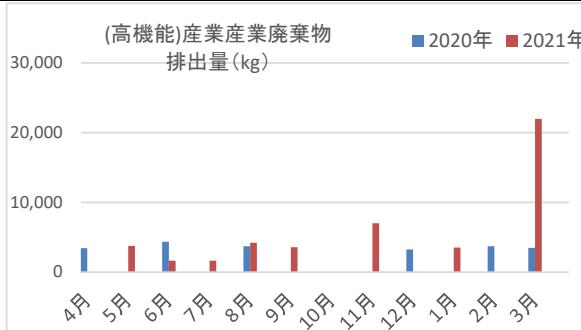
灯油	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	0.550	1.053	0.463	0.453	0.488	0.600	0.862	0.876	0.936	0.934	1.389	1.178
合計	9.8	t-CO2	生産量	493	t	原単位	0.020	t-CO2/t				
2021年	0.453	0.931	0.408	0.129	0.396	0.558	1.838	0.550	1.121	0.944	1.252	0.807
合計	9.4	t-CO2	生産量	425	t	原単位	0.022	t-CO2/t	111%	(原単位2020年度比)		

一般廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標			年間を通じて若干量はあるが、目標値と比べて一般廃棄物量が減少した。2022年度も引き続き活動をすすめる。	
・分別の徹底		○		



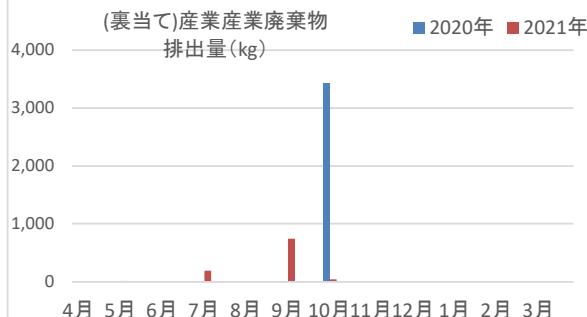
一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	555	639	552	600	456	579	501	546	492	486	474	588
合計	6,468	kg	生産量	493	t	原単位	13.1	kg/t				
2021年	558	477	615	549	510	534	471	585	540	462	438	432
合計	6,171	kg	生産量	425	t	原単位	14.5	kg/t	111%	(原単位2020年度比)		

(高機能)産業廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標			3月末に水処理施設の堆積汚泥を処理し大量の廃棄が発生した。(約5年に一度の頻度)年間を通じても目標値を超過した結果となった。生産量の増加による影響と考えられる。2022年度も引き続き廃棄物低減活動を進める。	
・混合廃棄物分別による廃棄量の削減		△		
・素材別ボックスの設置		○		
・リサイクル業者の開拓				



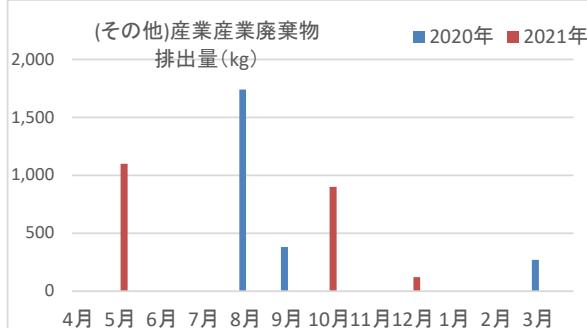
産廃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	3,450	0	4,350	0	3,730	0	0	0	3,250	0	3,710	3,480
合計	21,970	kg	生産量	136	t	原単位	161.6	kg/t				
2021年	0	3,780	1,670	1,670	4,200	3,570	0	7,010	30	3,510	0	21,960
合計	47,400	kg	生産量	167	t	原単位	284.1	kg/t	176%	(原単位2020年度比)		

(裏担当)産業廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標			△	○
・作業ミスによる廃棄量の削減		△		
・素材別ボックスの設置		○		
・				



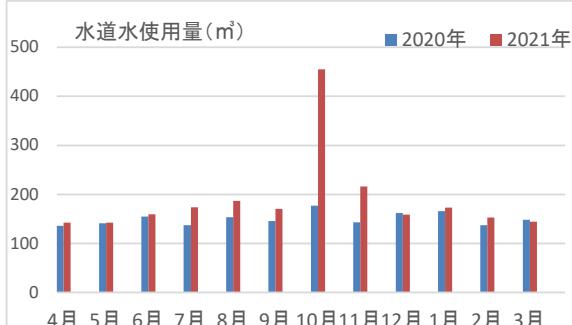
裏担当 産業廃棄物													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2020年	0	0	0	0	0	0	3,430	0	0	0	0	0	0
合計	3,430	kg	生産量	357	t	原単位	9.6	kg/t					
2021年	0	10	0	190	0	740	40	0	0	0	0	0	0
合計	980	kg	生産量	259	t	原単位	3.8	kg/t	39%	(原単位2020年度比)			

(その他)産業廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標			○	△
・混合廃棄物分別による廃棄量の削減		△		
・素材別ボックスの設置		○		
・リサイクル業者の開拓		△		



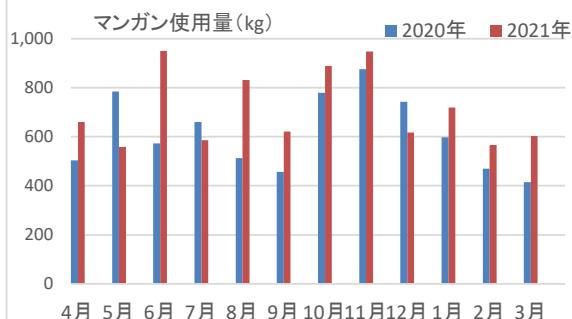
その他 産業廃棄物													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2020年	0	0	0	0	1,740	380	0	0	0	0	0	0	270
合計	2,390	kg	生産量	493	t	原単位	4.8	kg/t					
2021年	0	1,100	0	0	0	0	900	0	121	0	0	0	0
合計	2,121	kg	生産量	425	t	原単位	5.0	kg/t	103%	(原単位2020年度比)			

水使用量の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		×	
・節水シールの貼り付けとポスター掲示		○	
・節水弁取り付け		△	
・自動水栓取り付け		△	
・トイレに擬音装置取り付け		○	年間を通じて目標値を超過した結果となった。生産量増加により、復水使用量と(原料としての)水使用量が増えたと考えられる。2022年度以降は無駄の排除や漏れ箇所の発見のために計測機器の設置を検討する。



水道	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	136	141	155	138	154	146	177	143	162	166	138	149
合計	1,804	m³	生産量	493	t	原単位	3.7	m³/t				
2021年	143	142	159	174	187	171	455	216	159	173	153	145
合計	2,276	m³	生産量	425	t	原単位	5.4	m³/t	146%	(原単位2020年度比)		

マンガン使用量削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	
・有害性物質の表示の徹底		○	
・容器の蓋の徹底		○	
・作業ミスによる使用量増加の抑制		△	SUS製添着装置導入後、液槽に固着した添着液が堆積するようになった。(今までの添着装置では排水していた)これを再利用できれば液使用量の抑制につながるので、2022年度は技術開発部と連携し活動をすすめる。
・代替物質の検討		△	



マンガン	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	503	784	572	661	512	457	779	875	742	598	470	415
合計	7,369	kg	生産量	136	t	原単位	54.2	kg/t				
2021年	660	559	950	585	831	621	889	947	617	719	567	603
合計	8,546	kg	生産量	167	t	原単位	51.2	kg/t	94%	(原単位2020年度比)		

環境に配慮した生産活動		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・不良率低減		○	試験生産での廃却原料以外に大きく減失している原料は無い。廃却の原因となる不良発生(目切れ目欠け)を抑える方法として2022年度はフ
・稼働率向上		△	ラックの保管方法を検討する。
・顧客クレーム削減(品質の安定化)		△	
・廃棄率削減		△	

□主な環境負荷の実績(大阪本社/東京)

項目	単位	2019年	2020年	2021年
二酸化炭素総排出量				
大阪本社	t-CO2	2.8	2.6	2.6
東京営業所	t-CO2	3.5	3.0	3.1
コピー用紙使用量(A4)				
大阪本社	枚	55,000	39,398	44,499
東京営業所	枚	25,000	20,800	10,400

※二酸化炭素排出係数

0.00042 t-CO2/kWh

電力会社の調整後の係数(大阪)

0.00048 t-CO2/kWh

電力会社の調整後の係数(東京)

□環境経営目標及びその実績

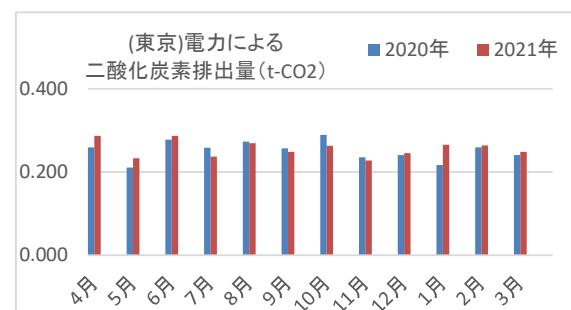
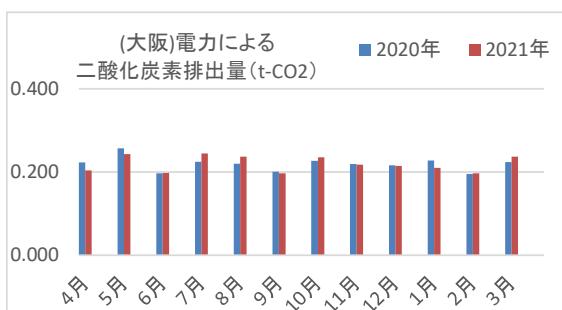
項目	年度	2020年		2021年		評価	2022年	2023年	
		(基準年)		上段: 排出量			(目標)	(目標)	
		(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)		(実績)	(目標)	
電力による二酸化炭素排出量削減(大阪)	t-CO2	2.6	2.6	2.6	×	2.6	2.6	2.6	
	基準年度比	100%	99%	100%		98%	98%	97%	
電力による二酸化炭素排出量削減(東京)	t-CO2	3.0	3.0	3.1	×	3.0	2.9	2.9	
	基準年度比	100%	99%	102%		98%	98%	97%	
上記二酸化炭素排出量合計	t-CO2	5.646	5.590	5.707		5.533	5.477		
コピー用紙使用量削減(大阪)	枚	39,398	39,004	44,499	×	38,610	38,216		
	基準年度比	100%	99%	113%		98%	98%	97%	
コピー用紙使用量削減(東京)	枚	20,800	20,592	10,400	○	20,384	20,176		
	基準年度比	100%	99%	50%		98%	98%	97%	
上記コピー用紙使用量合計	枚	60,198	59,596	54,899		58,994	58,392		

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減(大阪、東京)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	大阪、東京のどちらも目標値よりも抑えることが出来た。来年度も節電活動を継続する。
・こまめな消灯の実施	○	
・事務所温度管理の徹底	○	
・啓蒙活動による節電意識の向上	○	



大阪	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	0.223	0.257	0.196	0.224	0.220	0.201	0.227	0.219	0.216	0.227	0.195	0.224
合計	2.6	t-CO2										
2021年	0.204	0.243	0.197	0.245	0.237	0.197	0.235	0.217	0.215	0.210	0.196	0.237
合計	2.6	t-CO2	100% (2019年度比)									
東京	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	0.259	0.211	0.278	0.258	0.273	0.257	0.289	0.235	0.240	0.217	0.259	0.241
合計	3.0	t-CO2										
2021年	0.287	0.233	0.287	0.237	0.269	0.248	0.263	0.228	0.245	0.265	0.264	0.248
合計	3.1	t-CO2	102% (2019年度比)									

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項	日高工場		大阪本社		東京営業所	
		該当	評価	該当	評価	該当	評価
廃棄物処理法	契約書、マニフェスト交付状況報告、適正処理	○	○	—	—	—	—
PCB特措法	適正処理、保管及び処分状況の報告	○	○	—	—	—	—
騒音規制法	特定施設等の届出	○	○	—	—	—	—
振動規制法	特定施設等の届出	○	○	—	—	—	—
水質汚濁法	排出基準の遵守	○	○	○	○	○	○
下水道法	排出基準の遵守	○	○	○	○	○	○
消防法(危険物)	消火設備及び危険物の管理	○	○	○	○	○	○
フロン排出抑制法	フロン類の回収・排出量の報告	○	○	—	—	—	—
PRTR法	排出量及び移動量の報告	○	○	—	—	—	—
毒物及び劇物取締法	毒物、劇物の管理	○	○	—	—	—	—
家電リサイクル法	適正処理	○	○	○	○	○	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

外部からの環境上の苦情・要望等はありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 地震の発生	
■実施日： 2021/9/24、2022/3/11	■実施場所： 日高工場
■参加者： 日高工場従業員	
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input type="checkbox"/> 消火訓練 <input type="checkbox"/> 避難訓練	
工場稼働中に震度5強の地震が発生した場合を想定し、①地震発生時の初期行動②本震後の行動③避難場所での行動④消火器による消火訓練を実施しました。	
■評価： 各工程ごとに配置した管理担当者を中心に関係者を含む全員で訓練を行いました。地震発生時に停電する想定で天井照明を消灯し避難をおこないました。また、訓練用消火器で消火訓練をおこないました。	
■実施状況の様子	
  	

緊急事態の想定： 汚水流事故の発生	
■実施日： 2021/9/24	■実施場所： 日高工場
■参加者： 係長、リーダー、サブリーダー	■実施内容： ・流出事故対応
■評価： サブリーダー以上を対象に、工場敷地外への汚水流防止ゲートの取り扱い訓練を実施しました。	
■実施状況の様子	
 	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2022年4月15日

[環境方針]

現方針を継続します。特に自然環境を守り地球環境保全を重視する豊岡市に所在する日高工場は「環境に配慮した生産活動」や「社会との共生・協調」が求められています。2022年度も引き続き生産活動の基本である生産性・歩留の向上を目指した活動を機軸に、重点課題に取り組んでいきます。

[目標・環境経営計画]

- ①年、半期、月、週、日等適切な時間単位で現状を測定、記録し、設定した目標は過去の実績と比較、考察を通し、改善策を立案します。
- ②工場では製品の品種構成や生産量の変化に的確かつ継続的に実績が評価できる様、引き続き改善を繰り返し行っています。
- ③本社・営業所は設定した目標の達成に向け、活動を継続していきます。
- ④技術開発部は、神鋼 藤沢事業所内での環境活動に参画し、環境活動を継続していきます。

(1)日高工場

- ・活動メンバーの見直しや環境パトロールを実施して、環境意識の向上や改善活動の活性化に取り組んでいきます。
- ・下記のこれまでの活動をレビューし継続と改善に注力していきます。

a.二酸化炭素排出量の削減

EA21委員会・省エネパトロールの継続・実施
電力使用量の監視と削減課題の抽出・対策検討実施
LPガス・灯油使用量の監視と削減策の維持・継続

b.原材料・副資材の原単位低減と、製品・仕掛品の不良廃棄量の削減

廃棄物の適正な処理と管理
原材料と副資材の廃棄量監視と削減活動
製品・仕掛品不良発生量と廃棄量の監視と削減活動

c.節水・天然資源と有害化学物質の使用量削減活動

水使用量の監視と節水・使用量削減活動の継続
化学物質のリスクアセスメントの確実な実施

d.関係法令の順守、その他

遵法意識の定着
法令改正等の適時確認

e.地域社会との共存共栄

地域貢献活動(工場周辺清掃や環境ハイキング)の継続
CSR活動の推進

(2)大阪本社、東京営業所

- ・下記のこれまでの活動をレビューし、継続と改善に注力していきます。

a.省エネ(電力使用量の削減)

b.廃棄物(紙、ペットボトル、缶などの分別の徹底)

c.有価物(資源化回収の増加)

d.省資源(コピー用紙(A4)使用量の削減)

e.水(共同施設での水使用量の節水活動の徹底と啓発)

環境防災訓練:環境災害を未然に防止するため、実地訓練を検討し、防災対策の有効性向上を図っていきます。

環境活動レポート:環境活動がより分かりやすく公表できる様に工夫と改善を図っていきます。

事業を取り巻く状況:顧客の海外進出が進み、当社製品の供給先も海外向けにシフトしている。

経営における課題:新規採用者の戦力化を急ぐための教育訓練等に要する時間やコストが一時的に増大している。

経営におけるチャンス:至近時の業績は堅調であり、設備改善や研究開発の推進を実施しやすい状況にある

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

工場周辺の清掃活動:

■実施日: 1回/月	■実施場所: 工場周辺
■参加者: 日高工場従業員(環境委員会、総務係)	

■実施内容:

月に一回、従業員による工場周辺の清掃をおこない、工場周辺の美化に努めています。

■実施状況の様子



地域清掃活動:

■実施日: 2回/年	■実施場所: 豊岡市内
■参加者: 日高工場従業員(有志)	

■実施内容:

年に二回、従業員の有志で地域のボランティア活動に参加して、地域の美化や交流に努めています。

■実施状況の様子



工場5S活動

■実施日: 1回/月	■実施場所: 工場内
■参加者: 日高工場従業員(全員)	

■実施内容:

月に1回、工場従業員全員で工場5S活動を実施しています。

工場内の整理整頓や作業環境の改善をおこなっています。廃棄物の分別に徹底的に取組み低減に努めています。

■実施状況の様子



□編集後記

2021年度は工場の作業場に設置している蛍光灯を全灯LEDへ変更しました。消費電力を抑えるとともに照度も改善されました。また暑熱対策として現場には空調服の導入、事務所にはスーパークールビズを導入しました。省エネだけでなく作業環境改善にもつながるこういった取り組みを引き続き探していくます。

担当者 池田智史